

維持透析患者におけるシャントトラブルスコアリング (STS) シートを用いたバスキュラーアクセス管理について

博樹会 西クリニック

○田口幸雄 (タグチ ユキオ) 竹内貴子 小林秀子 高沖真由美 渡辺信行 西 隆博
西 忠博

【目的】

血液透析患者のバスキュラーアクセス (VA) 管理にシャントトラブルスコアリング (STS) シートを導入して当院では 2 年が経過した。STS によるシャントトラブル予防の効果についての検討した

【対象方法】

内シャント (以下、AVF) 及び人工血管 (以下、AVG) を VA とする当院の慢性維持透析患者を対象とし STS 導入前後それぞれ 2 年間での突然のシャント閉塞の件数、再建術を要するシャントトラブルやシャント修復を行った件数を比較検討した。STS の評価は、臨床工学技士 10 名および看護師 15 名、3 ヶ月に 1 回透析時に施行した

【結果】

STS 導入前の 2 年間では突然のシャント閉塞 3 件、再建術 9 件、修復 5 件であった。STS 導入後の 2 年間では、突然のシャント閉塞 3 件、再建術 13 件、修復 7 件で突然のシャント閉塞の件数は変わらないが、STS 導入後においてシャント再建術、修復件数は多い傾向であった。

【まとめ】

当院では以前より臨床工学技士を中心に超音波検査を用いた VA 管理を行っていたが、STS シートを導入することで更に継続的な評価や観察が行うことができより細やかな VA 管理が可能となり VA 異常の早期発見と早期治療が可能となった。